

創立 40 周年によせて

(国立病院機構宇都宮病院 院長 田中孝昭)

創立 40 周年を心からお慶び申し上げます。学校と私が勤務する国立病院機構宇都宮病院は長い廊下で繋がっているばかりでなく、様々な面で緊密な関係があります。私が赴任した平成 13 年には重症心身障害児に加え医学的ケアが必要な学童が入院しており、そこから 7-8 名の生徒が揃って通学していたことを覚えております。少子化で小児慢性病棟はなくなりましたが、重症児のやしお学級は現在もお世話になっております。

当院が最も学校のお世話になったのは、2011 年 3 月 11 日の東日本大震災の時です。当院西病棟では 3 階から水が多量に漏れ出し、エレベーターが停止のため 100 名以上の患者さんを人の手で降ろしました。また、重症児病棟も雨漏れ、天井の落下、窓ガラスの破損等が生じたため学校の体育館に避難させました。急な要請にもかかわらず快く受け入れていただいた事に誠に感謝しております。

当院では毎月、薬剤委員会、倫理委員会を開催しており、校長先生と教頭先生に有識者の外部委員を嘱託しております。平成 15 年の倫理委員会で、私と企業で開発した人工骨を用いた膝の骨切り術の審査をお願いして承諾していただきました。会議終了後、委員の 1 人である教頭先生から ”これは、もしかして私のような人のための治療法ではないでしょうか？” としかかれ、一度診察を受けられるように説明しました。その後、当時厚労省未承認であった人工骨を用いた手術を受けられ現在術後 16 年以上経過しておりますが、趣味のゴルフを楽しんでいるようです。

現在、新型コロナウイルス感染症により生活が著しく制限されていますが、自身を含め皆さんに ”与えられた環境で今できることを精一杯やる” を送らせていただきます。